

災害に備えを

岩沼中学校三年

岩佐新空

お盆休みの直前に、日本の近くでは台風が

二つも発生してしまいました。台風が発生す

ると、大雨や強風の被害が出て、土砂災害な

ど様々な災害が起きかねません。

ニュースでは台風の進路予想や、新幹線

飛行機、高速道路などの運行状況や、混雑状

況が報道されていきました。勿論、これらの情

報も不可欠ですが、私は、台風の影響による

土砂災害などの災害情報も、多くの方

に知らせるべきだと思ったりしません。その

理由は、自分の家に限って被害に遭わばい

らう、安全だろう、と思いついてしまいかね

ないからです。また、馴染みがない旅先の

災害は、自宅周辺の災害よりも、思わぬ被

害に遭いやすいこととは言ってもありません。

私の母と祖母は、淡路島北部を震源とする

阪神淡路大震災と、三陸沖を震源とする東日

本大震災を経験しています。この二つの災害

をどちらも経験した人は決して多くはないはず
 です。祖母は、阪神淡路大震災が起きたとき
 にかく外はガスのおいが充満していてとて
 も怖かった。火事に至る所で起きていた、恐
 怖から五日間は安バしてお風呂にも入れない
 状況だった。にが、不衛生だということを気にす
 る余裕もないほど地震が怖かった。万が一余
 震が起きた時に備えて常にすぐ出られる格好
 をしていた。と、繰り返し話していました。や
 がて祖母は、祖父の転勤で移り住んでいた兵
 庫県から、実家がある宮城県に越すことにな
 りました。にが、まさか宮城県でも災害に遭うと
 は思わなかった。は、ずです。阪神淡路大震災の
 印象が火災やガスのおいだ。た、ことには、対し、
 東日本大震災の印象は津波だと話していまし
 た。母や祖母の話は、目の前で地震が起きて
 いるのではないかと錯覚してしまえば、ど、具
 体的で、自然と災害への意識が高まりました。
 東日本大震災では、当時二歳だった私を連

れて避難したのでも小さい子供が
 いる中で、避難は負担が大きかった
 と思います。比較的
 海に近い場所に住んでいたため、
 母と祖母は高台に避難しようと思
 ったのですが、センターに避難し
 ました。山の方にあるが、津波か
 ら守ってくれたことは間違いない
 と思います。現在は土砂災害警戒
 区域だったので、現在、地震が
 発生したとき、無意識のうち
 に地震と津波を繋げてしまっ
 たり、土砂災害は豪雨によ
 って起きることもありますが、
 土砂災害は強い揺れで地盤が緩
 んで、普段なら土砂災害が起
 きると予想され、可能性が
 あります。森林は日本の国土の
 三分の二を占めています。地震
 が発生したときは、津波が迫
 ってきていることだけでなく、逃
 げられ、土砂災害が起きる可
 能性があります。

ということを忘れてはなりません。

私は、母と祖母の体験から、自分の住む自

治体のハザードマップを確認しておくことが

大事だといひから思いました。令和五年四月時

点で洪水ハザードマップは、九十九パーセン

トの市区町村で作成が完了していきます。

が、私たちの生活にはあまり浸透していきな

ように思えます。公民館には、かかりでなく、自

治体が家庭用にハザードマップを配布し、目

に見えるところ、ところに貼るようにする、避難場

所や避難経路に迷うこともなくなるはずで

災害が発生した時、家族が全員一緒にいると

は限りません。家族で災害が起きた時、ど

に避難するか確認し、忘れないようにしてお

く、今すぐいかに確認し、忘れないようにして

インフラが整備されている都市部でも起

てしまう都市型斜面災害という土砂災害も近

年多くなってきていると知りまし。私の住

む岩沼市に近い仙台市は、都と呼ばれる近

代都市ですが、坂道のある住宅街が多く、都
 市型斜面災害が発生してしまおうと、多くの人
 や家が巻き込まれかねず、バ配です。もう私
 には関係ないなどと言っていていられる余裕はあ
 りません。
 現代の技術では、私たちが災害から逃げる
 ことは不可能です。だからこそ十分に備えて、
 最小限の被害で抑えなければなりません。私
 は、母と祖母が大きな災害を二つも経験したに
 からこそ、災害は誰にでも何度でも起こりう
 るものなのだ、ということを実感したのでです。
 私の住む地域は土砂災害がまだ起きていま
 んが、だからこそいつ起こるか分かりませ
 ん。ですから、カンパニヤペットボットの飲
 料水、栄養ゼリーなど、常備しておくと、大
 切なものです。常に災害のことを忘れず、確
 実に備えておくことこそが私たちの生活を守
 る鍵に
 なるはず
 です。